

2014年度 大会のルールについて

2014年2月10日

下記ルールは、ルールブックに基づき、危険防止と公平の原則を基本に、故意（悪質）の反則を抑制する事や、分かりにくい所を審判で統一（再確認）するものであり、ルールを変更するものではない。1. 2. については、2014年度以降の選手権とブロック予選から採用する。

3. 4. 5. については、2014年度以降の全ての大会で摘要する。

1. ベンチペナルティー（2分間）について

- ① イエローカード（以下イエロー）＝（イエロー） ベンチペナルティーとする。
- ② イエローが出された場合は、2分間のベンチペナルティーとし、ベンチとは反対側のオフィシャル席横のペナルティーBOXに入る。
- ③ 相手チームが得点を入れた場合も、自チームが得点を入れた場合も、ベンチペナルティーは継続とする。
- ④ ペナルティーBOX内では、誰とも話す事は出来ない。また声を出すことも出来ない。
- ⑤ **監督・コーチ・ベンチプレーヤー**にイエローが出た場合は、コートに居る選手1人がベンチに下がり、ペナルティーを受けたベンチの人がペナルティーBOXに入る。
試合は、1人少ない状態で行い、解除の場合は、コートの外を回ってベンチに戻る。
- ⑥ ハーフタイムをまたぐ場合は、ベンチには戻れない。
- ⑦ 2分間とは、オフィシャルのタイマーの時間とする。
タイマーが何らかの理由で止まった場合は2分間も止める事とする。
- ⑧ イエローの累積は1試合とし大会中の累積では無い。
1試合に1人2枚のイエローが出た場合はレッドカードとし、以降の試合には出場出来ない。
- ⑨ イエローを出す場合は、時計を止めてからイエローカードを出し、反則の説明をし、ペナルティーBOXに入れる。
- ⑩ ベンチペナルティーは、オフィシャルの指示によって解除される。
- ⑪ ペナルティーBOXに2人入った場合、コートには4人なので交代は出来ない。
また、交代の際も3人以上が同時に交代する事も出来ない。
(コートに3人となる為、没収試合となる)

2. 大会要項にて対応する事項

- ① GKの長ズボン（ジャージ）は可とする。フィールドプレーヤーは短パンとする。
(今後は、ソックスも統一する予定)

3. イエローカードとなる主な反則について

- ① オーバーメンバーは、7人コートに入った時点とする。7人目が分からない場合は、ベンチに確認する。男女の比率違いについては、オフィシャルにメンバー表を確認させる。
指定された場所以外で交代した場合。(反則名はオブストラクション)
- ② レフリーに対してのアピール・暴言・クレームを行った場合。
キャプテンのみ質問する事が出来る。
- ③ 同じ反則行為を度重ねた場合。2種類の反則を同時に行った場合。

- ④ シューティングエリア内またはシューティングエリア付近で、防御側のフィールドプレーヤーが故意に、頭・手・腕・ジャンプでボールを止めた場合。
- ⑤ フリーストロークの際（ゴール前以外も適用）、防御側のプレーヤーが3 m以内に近寄る等（スティックも含む）故意に**攻撃側のプレーを妨げた場合は**、遅延行為とし、イエローとする。微妙な場合審判は「次に3 m以内に近寄った場合は1回目の選手とは別の選手でもイエローとする」と注意（1試合で最初のみ）して再度行った場合は反則を取る。以降、同じ様な場面でも注意ではなくイエローとする。複数のプレーヤーが3 m以内に同時にいった場合は、キャプテンもしくはキャプテンに該当する選手にイエローを出す。（反則名はオブストラクション）
- ⑥ 周囲に危険なハイスティック及び度重なる危険なハイスティック。
- ⑦ 後ろからクラッシングでは無い行為は、チャージングやオブストラクションの場合が多い。基本的に後ろからの反則にはイエローを出す。（危険防止の為）
- ⑧ 度重なる故意の（危険な）チャージングやクラッシング
- ⑨ ゴール前で悪質な反則を行った場合。
- ⑩ 防御側にイエローの反則があった場合にアドバンテージを取って、攻撃側のシュートが決まった場合でもイエローは適用される。
- ⑪ 故意に床をたたく・フェンスをたたく・ゴールをたたく行為については、全てレッドカードとする。
- ⑫ **アイガードやメガネが、衝突やボールが当たる等以外で落ちた場合。**

4. 審判員にて対応（統一）する事項

- ① 審判がセット後の選手によるボールのセットのやり直しは遅延行為とする。
- ② 選手の交代は、センターライン付近で行う。（フェンスに印を付ける）
- ③ **GK**のハッキングとキッキングについては、シュートされた時に限り、多少動いても故意に方向を変えなければ**OK**とする。（はたく、つかむ、蹴る事は認められない。）
- ④ **スティックのチェックはなし。ブレードテープのチェックのみ。**
- ⑤ **フェイスオフの際、セットしない場合は、1回注意をしてダメなら遅延行為として相手ボールとする。**
- ⑥ 脚はキッキング、脚以外はハッキングとする。
- ⑦ **GK**が故意のキッキングやハッキングをした場合は、**PS**とする。
- ⑧ ヒットとは、基本的に音が鳴っている場合とする。
- ⑨ 後ろから行っている、反則が無くボールを取った場合はチャージングとしない。
- ⑩ ゴール付近でのシュートの際、スティックインゴールの場合が多々ある。
- ⑪ ゴールをテープで止めるのは最低限とし、ゴールをスティックで叩いて動いた場合は**プッシングゴール**とする。
- ⑫ **オブストラクションの場合は、起きた場所からフリーストロークとする。**
- ⑬ 応援席（応援者）による暴言やクレームについては、該当チームの監督に注意する。注意しても再度行った場合は、応援席から出てもらい、該当チームの以降の試合は応援席無しで試合を行う。（該当チームの監督は**厳重注意**とする）
- ⑭ 故意の反則（イエローが出るレベルの反則）に対しては、次に同じ反則をしたら **イエロー**と言うのではなく、その時点でイエローを出す。
故意の反則で無い場合は、1回のみ注意をし、以降はイエローとする。

5. 大会要項にて対応する事項

- ① GKとフィールドプレイヤーは兼任出来るが、背番号が同じでなくてはならない。

6. その他（今後の検討事項）

- ① ゴールの大きさについて
- ② A級審判員のフォロー研修について
- ③ 選手権の帯同審判について
- ④ 2月の中央認定講習会を地方で開催する件について